



## 2019年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年11月1日

上場会社名 株式会社アシックス 上場取引所 東  
 コード番号 7936 URL <https://corp.asics.com/jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長〇〇〇 (氏名) 廣田 康人  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理財務統括部長 (氏名) 林 晃司 (TEL) 078-303-2213  
 四半期報告書提出予定日 2019年11月6日 配当支払開始予定日 ー  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家、証券アナリスト、報道機関向け電話会議）

(百万円未満切捨て)

### 1. 2019年12月期第3四半期の連結業績（2019年1月1日～2019年9月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年12月期第3四半期	286,166	△3.2	12,677	△17.5	13,116	△3.8	6,928	△16.4
2018年12月期第3四半期	295,680	△4.7	15,361	△37.1	13,635	△47.0	8,288	△47.5

(注) 包括利益 2019年12月期第3四半期 2,428百万円 (△75.9%) 2018年12月期第3四半期 10,066百万円 (40.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年12月期第3四半期	36.79	36.27
2018年12月期第3四半期	43.86	41.31

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年12月期第3四半期	313,384	160,025	50.4
2018年12月期	304,460	166,829	54.1

(参考) 自己資本 2019年12月期第3四半期 157,794百万円 2018年12月期 164,819百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年12月期	—	12.00	—	12.00	24.00
2019年12月期	—	12.00	—	—	—
2019年12月期（予想）	—	—	—	18.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

※2019年12月期期末配当金（予想）の内訳 普通配当12円00銭 創立70周年記念配当6円00銭

### 3. 2019年12月期の連結業績予想（2019年1月1日～2019年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	390,000	0.9	12,000	14.1	12,500	42.6	7,500	—	39.71

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動：無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社 (社名)、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料11ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料12ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (会計方針の変更) (会計上の見積りの変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2019年12月期 3 Q	189,870,559株	2018年12月期	199,870,559株
② 期末自己株式数	2019年12月期 3 Q	4,016,712株	2018年12月期	11,165,350株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2019年12月期 3 Q	188,295,557株	2018年12月期 3 Q	189,005,020株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的と判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項については、添付資料5ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法)

当社は、2019年11月1日(金)に電話会議による機関投資家、証券アナリスト、報道機関向け説明会を開催する予定です。この説明会で使用する四半期決算補足説明資料については、開催同日に当社ホームページ ([https://corp.asics.com/jp/investor\\_relations/library/financial\\_summary](https://corp.asics.com/jp/investor_relations/library/financial_summary)) に掲載する予定です。

(日付の表示方法の変更)

「2019年12月期 第1四半期決算短信」より日付の表示方法を和暦表示から西暦表示に変更しております。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(四半期連結貸借対照表関係)	10
(四半期連結損益計算書関係)	10
(セグメント情報等)	10
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	11
(会計方針の変更)	12
(会計上の見積りの変更)	12
(追加情報)	12
3. 補足情報	13
(1) 地域別売上高	13
(2) 在外子会社為替換算レート	13
(3) 報告セグメント別売上高増減比、セグメント利益増減比およびセグメント利益率	13

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間において、当社グループは、更なる成長の礎を築くため、中期経営計画「ASICS Growth Plan(AGP)2020」の行動計画である「アクションプラン」に基づき、カテゴリー基軸の経営管理体制の深化を図りました。そして、以下の4つを重点施策として設定し、高付加価値商品の発売等を通して、グローバルレベルでの顧客基盤の拡大、ブランド価値の向上を図りました。

- ① パフォーマンスランニングシューズで勝つ
- ② オニツカタイガーの拡大
- ③ 中国本部により成長を加速
- ④ デジタルを新たな成長ドライバーに

なお、新しい経営管理体制の下、機能ごとに分かれていた組織を統合し、それぞれのカテゴリートップがコミットした目標の達成に向けて邁進しております。

パフォーマンスランニングでは、快適に走ることができ、ランナーの走り方などに応じたさまざまなランニングシューズを展開しました。当社史上最も革新的な機能を搭載したランニングシューズ「METARIDE」を市場投入し、同じコンセプトを引継いだ「GLIDERIDE」をシリーズに加え、グローバルで「WIN THE LONG RUN(ともに走るあなたへ)」のキーフレーズを訴求したほか、妥協なくより快適なランニング体験を追求した26代目となる高機能ランニングシューズ「GEL-KAYANO 26」を市場投入しました。マラソンイベントに於いては、東京、パリ、無錫(中国)、ゴールドコーストをはじめとする世界各地のマラソン大会に協賛しブランド価値の向上を図りました。また、2020年3月からはロサンゼルスマラソンのオフィシャルスポンサーを開始致します。

スポーツスタイルでは、ランニングやトレーニングを日常に取り入れ楽しむお客様に向けたシューズや、カジュアルでも使用できるシューズを展開しました。衝撃緩衝材「GEL」を靴底の周囲に配した「GEL-QUANTUM」シリーズの新作「GEL-QUANTUM 360 5」を市場投入したほか、国内外の有名デザイナーとコラボレーションした商品を市場投入しました。

コアパフォーマンススポーツでは、テニス、バレーボールなどの競技用シューズを展開しました。男子シングルス世界ランキング1位のプロテニスプレーヤーであるノバク・ジョコビッチ選手の意見を取り入れ、新たに開発した高機能テニスシューズ「COURT FF NOVAK」、アンドレス・イニエスタ選手(所属: ヴィッセル神戸)と共同開発したサッカー用スパイクシューズ「ULTREZZA AI(ウルトレツツァ エーアイ)」などを市場投入し、SNS等を通して訴求しました。また、陸上競技ではスパイクピンを使わない“次世代”陸上スプリントシューズを桐生祥秀選手に提供したほか、国際陸上競技連盟(IAAF)とのオフィシャルパートナー契約を更新し、2029年までの10年間の契約を締結しました。

アパレル・エキップメントでは、競技用ウエアや日常のファッションアパレルなどを展開しました。GEL-COOLプリントによって清涼感を生み出すスポーツウエアなど、当社の技術を活用した商品を市場投入したほか、国際陸上競技連盟(IAAF)とのオフィシャルパートナーおよび日本、フランス、イタリア等の各国陸上競技連盟のオフィシャルパートナーとして、第17回世界陸上競技選手権大会(2019/ドーハ)において大会役員および代表選手団への商品提供・サポートを行いました。また、ラグビーでは「WALLABIES(ワラビーズ)」の愛称で知られるオーストラリア代表チームおよび「SPRINGBOKS(スプリングボックス)」の愛称で知られる南アフリカ共和国代表チームのレプリカジャージ等も市場投入しました。

オニツカタイガーでは、かつて競技用だったシューズをスポーティなファッションブランドとして復刻したシューズなどを展開しました。創業70周年を記念し、ブランドの礎となったバスケットボールシューズのデザインをベースにしたシューズを市場投入したほか、国内外で高い人気を誇るデザイナー7人とのスペシャルコラボレーションを発表しました。また、最上位の商品シリーズとしてドレッシーなファッション性と快適な機能性を両立させた「THE ONITSUKA」に加え、「GIVENCHY(ジバンシィ)」とのコラボレーションシューズをイタリアのピッティ・イマージネ・ウオモにて「GIVENCHY」のランウェイショーで発表し市場投入しました。俳優/映画プロデューサーであるウィル・スミス氏とコラボレーションしたムービーを発表しオニツカタイガーブランドを訴求しました。

直営店やEコマースなど全ての顧客接点で利用できる独自のメンバーシッププログラムである「OneASICS」の導入を進めました。また、オニツカタイガーの旗艦店を中国で初めて6月に上海、次いで7月に北京にオープンし、アシックスグループの直営店舗数は、全世界で983店となりました。

また、世界の代表的なESG投資指標「Dow Jones Sustainability Indices」の「Asia/Pacific Index」対象銘柄に5年連続で選定されました。

当第3四半期連結累計期間における売上高は、オニツカタイガーが好調に推移しましたが、アパレル・エクイップメントが低調であったことに加え、円高による為替換算レートの影響などにより286,166百万円と前年同期間比3.2%の減収（前年度の為替換算レートを適用した場合0.6%増）となりました。

売上総利益は原価率が若干上昇したことなどにより、134,377百万円と前年同期間比4.4%の減益となりました。販売費及び一般管理費は、前連結会計年度末に実施した事業構造改革の効果などにより、121,699百万円と前年同期間比2.8%の減少となりましたが、営業利益は12,677百万円と前年同期間比17.5%の減益となりました。その結果、経常利益は、為替差益を計上したものの、13,116百万円と前年同期間比3.8%の減益となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は6,928百万円と前年同期間比16.4%の減益となりました。

カテゴリー別の業績は、次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間よりグループ会社に対するECプラットフォーム使用料を各カテゴリー別の業績に含めておりますが、これを除いた営業利益を前年同基準として表示しております。

（単位：百万円）

(カテゴリー)	売上高			営業利益		
	前第3四半期連結累計期間	当第3四半期連結累計期間	増減額 (△は減)	前第3四半期連結累計期間	当第3四半期連結累計期間	増減額 (△は減)
パフォーマンスランニング	133,628	126,728	△6,899	9,620	4,480	△5,140
スポーツスタイル	26,845	25,499	△1,346	535	64	△470
コアパフォーマンススポーツ	33,218	33,059	△158	79	△394	△474
アパレル・エクイップメント	34,018	29,753	△4,265	赤字	赤字	—
オニツカタイガー	32,466	35,008	2,542	6,547	7,599	1,051

① パフォーマンスランニング

売上高は、日本、北米が好調であったものの、欧州が低調であったことに加え、為替換算レートの影響などにより126,728百万円と前年同期間比5.2%の減収（前年度の為替換算レートを適用した場合0.7%減）となりました。営業利益につきましては、4,480百万円（前年同期間比53.4%の減、前年度の為替換算レートを適用した場合49.9%減）となりました。

なお、前年と同基準とし、前年度の為替換算レートを適用した場合のカテゴリー別業績は営業利益6,126百万円（前年同期間比36.3%減）となります。

② スポーツスタイル

売上高は、日本、北米が好調であったものの、中華圏が低調であったことなどにより、25,499百万円と前年同期間比5.0%の減収（前年度の為替換算レートを適用した場合0.2%減）となりました。営業利益につきましては、64百万円（前年同期間比87.9%の減、前年度の為替換算レートを適用した場合73.7%減）となりました。

なお、前年と同基準とし、前年度の為替換算レートを適用した場合のカテゴリー別業績は営業利益381百万円（前年同期間比28.8%減）となります。

③ コアパフォーマンススポーツ

売上高は、北米、中華圏、東南・南アジアにおいて好調であったものの、欧州が低調であったことなどにより、33,059百万円と前年同期間比0.5%の減収（前年度の為替換算レートを適用した場合2.5%増）となりました。営業損失は、394百万円となりました。

なお、前年と同基準とし、前年度の為替換算レートを適用した場合のカテゴリー別業績は営業損失182百万円となります。

## ④ アパレル・エクイップメント

売上高は、29,753百万円と前年同期間比12.5%の減収（前年度の為替換算レートを適用した場合9.6%減）となりました。営業損益につきましては、引き続き赤字となりました。

## ⑤ オニツカタイガー

売上高は、日本、韓国、東南・南アジアが好調に推移したことにより、35,008百万円と前年同期間比7.8%の増収（前年度の為替換算レートを適用した場合11.8%増）となりました。営業利益につきましては、7,599百万円（前年同期間比16.1%の増、前年度の為替換算レートを適用した場合20.2%増）となりました。

なお、前年と同基準とし、前年度の為替換算レートを適用した場合の 카테고리別業績は営業利益7,951百万円（前年同期間比21.4%増）となります。

報告セグメント別の業績は、次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントとして記載する事業セグメントを変更しており、当第3四半期連結累計期間の比較・分析は、変更後の区分に基づいております。

また、第1四半期連結会計期間よりグループ会社に対するECプラットフォーム使用料等を各報告セグメント別の業績に含めておりますが、これらを除いたセグメント利益を前年同基準として表示しております。

## ① 日本地域

売上高は、パフォーマンスランニングとオニツカタイガーが好調であったことにより、92,364百万円（前年同期間比2.7%増）となりました。セグメント利益につきましては原価率の改善などにより5,257百万円（前年同期間比24.2%増）となりました。

なお、前年と同基準とした場合のセグメント利益は5,822百万円（前年同期間比37.5%増）となります。

## ② 北米地域

売上高は、パフォーマンスランニングとコアパフォーマンススポーツが好調であったことにより、60,141百万円（前年同期間比1.6%増、前年度の為替換算レートを適用した場合2.5%増）となりました。セグメント損失につきましては原価率の悪化などにより3,853百万円となりました。

なお、前年と同基準とし、前年度の為替換算レートを適用した場合のセグメント損失は2,632百万円となります。

## ③ 欧州地域

売上高は、パフォーマンスランニングが低調であったことおよび為替換算レートの影響などにより、71,495百万円（前年同期間比12.4%減、前年度の為替換算レートを適用した場合6.5%減）となりました。セグメント利益につきましては2,069百万円（前年同期間比57.2%減、前年度の為替換算レートを適用した場合55.2%減）となりました。

なお、前年と同基準とし、前年度の為替換算レートを適用した場合のセグメント利益は2,897百万円（前年同期間比40.0%減）となります。

## ④ 中華圏地域

売上高は、現地通貨ベースでオニツカタイガーが好調に推移しましたが、為替換算レートの影響などにより、29,814百万円（前年同期間比4.8%減、前年度の為替換算レートを適用した場合0.1%増）となりました。セグメント利益につきましては、中国本部の設立による販管費の増加などにより5,144百万円（前年同期間比8.5%減、前年度の為替換算レートを適用した場合3.6%減）となりました。

なお、前年と同基準とし、前年度の為替換算レートを適用した場合のセグメント利益は5,435百万円（前年同期間比3.3%減）となります。

## ⑤ オセアニア地域

売上高は、パフォーマンスランニングが好調でしたが、為替換算レートの影響などにより、12,645百万円（前年同期間比1.3%増、前年度の為替換算レートを適用した場合10.5%増）となりました。セグメント利益につきましては、原価率の悪化などにより1,408百万円（前年同期間比18.6%減、前年度の為替換算レートを適用した場合11.3%減）となりました。

なお、前年と同基準とし、前年度の為替換算レートを適用した場合のセグメント利益は1,830百万円（前年同期間比5.7%増）となります。

⑥ 東南・南アジア地域

売上高は、パフォーマンスランニングとオニツカタイガーが好調であったことなどにより、8,901百万円（前年同期間比16.8%増、前年度の為替換算レートを適用した場合19.5%増）となりました。セグメント利益につきましては積極的なマーケティング投資を実行したことなどにより873百万円（前年同期間比28.2%減、前年度の為替換算レートを適用した場合26.7%減）となりました。また、インドの売上高は現地通貨ベースでの前年同期間比でおよそ30%の高成長を維持しております。

なお、前年と同基準とし、前年度の為替換算レートを適用した場合のセグメント利益は892百万円（前年同期間比26.6%減）となります。

⑦ その他地域

その他地域におきましては、オニツカタイガーが好調でしたが、為替換算レートの影響などにより、売上高は27,917百万円（前年同期間比3.3%減、前年度の為替換算レートを適用した場合7.0%増）となりました。セグメント利益は前連結会計年度末に実施した事業構造改革の効果などにより、1,507百万円となりました。

なお、前年と同基準とし、前年度の為替換算レートを適用した場合のセグメント利益は1,717百万円となります。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の財政状態といたしましては、総資産313,384百万円（前連結会計年度末比2.9%増）、負債の部合計153,358百万円（前連結会計年度末比11.4%増）、純資産の部合計160,025百万円（前連結会計年度末比4.1%減）でした。

流動資産は、現金及び預金などの減少により、220,853百万円（前連結会計年度末比7.4%減）となりました。

固定資産は、使用権資産の計上などにより、92,530百万円（前連結会計年度末比40.4%増）となりました。

流動負債は、新株予約権付社債を償還したことなどにより、70,361百万円（前連結会計年度末比26.9%減）となりました。

固定負債は、社債の新規発行およびリース債務の増加などにより、82,996百万円（前連結会計年度末比100.6%増）となりました。

株主資本は、自己株式の取得などにより、162,527百万円（前連結会計年度末比1.4%減）となりました。

その他の包括利益累計額は、為替換算調整勘定の減少などにより、△4,733百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年8月2日に公表いたしました連結業績予想に変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	68,287	47,126
受取手形及び売掛金	66,819	65,606
商品及び製品	87,782	84,652
仕掛品	412	298
原材料及び貯蔵品	891	968
その他	16,435	24,214
貸倒引当金	△2,051	△2,013
流動資産合計	238,576	220,853
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	37,854	37,706
減価償却累計額	△22,334	△22,816
建物及び構築物(純額)	15,520	14,889
機械装置及び運搬具	3,559	3,694
減価償却累計額	△2,748	△2,727
機械装置及び運搬具(純額)	810	966
工具、器具及び備品	28,175	27,899
減価償却累計額	△21,577	△20,921
工具、器具及び備品(純額)	6,597	6,977
土地	5,809	5,791
リース資産	8,335	8,110
減価償却累計額	△3,503	△3,627
リース資産(純額)	4,831	4,482
建設仮勘定	638	543
有形固定資産合計	34,207	33,650
無形固定資産		
のれん	5	—
ソフトウェア	4,896	4,446
使用権資産	—	24,143
その他	3,582	5,599
無形固定資産合計	8,484	34,188
投資その他の資産		
投資有価証券	9,343	9,349
長期貸付金	67	62
繰延税金資産	5,401	5,166
その他	8,895	10,551
貸倒引当金	△514	△439
投資その他の資産合計	23,192	24,690
固定資産合計	65,884	92,530
資産合計	304,460	313,384



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	31,161	30,956
短期借入金	1,325	2,232
1年内償還予定の新株予約権付社債	30,005	—
リース債務	794	5,847
未払費用	18,172	14,744
未払法人税等	1,946	2,671
未払消費税等	2,228	3,817
返品調整引当金	194	197
賞与引当金	413	1,205
資産除去債務	13	2
その他	10,009	8,685
流動負債合計	96,266	70,361
固定負債		
社債	20,000	40,000
長期借入金	149	15
リース債務	5,114	27,669
繰延税金負債	2,627	3,155
退職給付に係る負債	6,189	6,539
資産除去債務	1,261	1,273
その他	6,022	4,343
固定負債合計	41,364	82,996
負債合計	137,631	153,358
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	23,972	23,972
資本剰余金	17,354	16,762
利益剰余金	133,107	127,251
自己株式	△9,585	△5,459
株主資本合計	164,848	162,527
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,608	2,525
繰延ヘッジ損益	3,577	5,963
為替換算調整勘定	△5,857	△12,902
退職給付に係る調整累計額	△356	△319
その他の包括利益累計額合計	△28	△4,733
新株予約権	433	449
非支配株主持分	1,576	1,781
純資産合計	166,829	160,025
負債純資産合計	304,460	313,384

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)
売上高	295,680	286,166
売上原価	155,024	151,704
返品調整引当金戻入額	269	215
返品調整引当金繰入額	331	299
売上総利益	140,594	134,377
販売費及び一般管理費	※ 125,232	※ 121,699
営業利益	15,361	12,677
営業外収益		
受取利息	572	576
受取配当金	244	231
為替差益	—	472
補助金収入	474	559
その他	551	501
営業外収益合計	1,843	2,341
営業外費用		
支払利息	509	1,408
為替差損	2,721	—
その他	338	493
営業外費用合計	3,570	1,902
経常利益	13,635	13,116
特別利益		
固定資産売却益	16	147
投資有価証券売却益	—	2
投資有価証券償還益	12	—
特別利益合計	29	149
特別損失		
固定資産売却損	—	35
固定資産除却損	30	66
投資有価証券売却損	—	3
投資有価証券評価損	25	10
特別損失合計	55	115
税金等調整前四半期純利益	13,609	13,151
法人税等	4,972	5,978
四半期純利益	8,637	7,172
非支配株主に帰属する四半期純利益	348	244
親会社株主に帰属する四半期純利益	8,288	6,928

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)
四半期純利益	8,637	7,172
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	588	△82
繰延ヘッジ損益	5,555	2,385
在外子会社資産再評価差額金	△18	—
為替換算調整勘定	△4,739	△7,084
退職給付に係る調整額	43	36
その他の包括利益合計	1,429	△4,744
四半期包括利益	10,066	2,428
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	9,771	2,223
非支配株主に係る四半期包括利益	295	205

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(四半期連結貸借対照表関係)

該当事項はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)
広告宣伝費	24,840百万円	24,143百万円
支払手数料	13,336百万円	15,084百万円
貸倒引当金繰入額	406百万円	139百万円
従業員賃金給料	29,745百万円	29,747百万円
賞与引当金繰入額	1,250百万円	1,060百万円
退職給付費用	786百万円	767百万円
賃借料	13,868百万円	9,716百万円
減価償却費	7,235百万円	8,951百万円

(セグメント情報等)

## 1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、経営会議が、経営資源の配分の決定および業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、世界本社として主に経営管理および商品開発を行っております。

当社グループは、主にスポーツ用品等を製造販売しており、国内においてはアシックスジャパン株式会社およびその他の国内法人が、海外においては北米、欧州・中近東・アフリカ、中華圏、オセアニア、東南・南アジアの各地域を、アシックスアメリカコーポレーション、アシックスヨーロッパB.V.、亞瑟士(中国)商貿有限公司、アシックスオセアニアPTY. LTD. およびアシックスアジアPTE. LTD. などがそれぞれ担当しております。

## 2. 報告セグメントの変更に関する事項

前第3四半期連結累計期間において、当社グループは、「日本地域」、「米州地域」、「欧州地域」(中近東・アフリカを含む)、「オセアニア/東南・南アジア地域」、「東アジア地域」、「その他事業」を報告セグメントとしておりましたが、第1四半期連結会計期間より「日本地域」、「北米地域」、「欧州地域」(中近東・アフリカを含む)、「中華圏地域」、「オセアニア地域」、「東南・南アジア地域」、「その他地域」として再編しました。これに伴い、「米州地域」に含めておりました南米子会社などを「その他地域」に移管しました。

この変更は、昨年8月に公表したアクションプランに基づき、第1四半期連結会計期間より収益管理区分の変更を行ったことによるものです。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成したものを記載しております。

## 3. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第3四半期連結累計期間(自 2018年1月1日 至 2018年9月30日)

(単位:百万円)

	日本地域	北米地域	欧州地域	中華圏地域	オセアニア地域	東南・南アジア地域	その他地域	合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
売上高										
(1) 外部顧客への売上高	77,098	56,237	81,559	31,319	12,477	7,621	28,480	294,793	887	295,680
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	12,859	2,981	38	—	—	—	391	16,270	△16,270	—
計	89,957	59,219	81,597	31,319	12,477	7,621	28,871	311,063	△15,382	295,680
セグメント利益又は損失	4,233	△1,157	4,832	5,621	1,731	1,216	△54	16,421	△1,060	15,361

(注) 1. (1) セグメント売上高の調整額は、報告セグメントに含まれない会社の売上高を含んでおりますが、主にセグメント間調整によるものであります。

(2) セグメント利益又は損失の調整額は、報告セグメントに含まれない会社の利益又は損失を含んでおりますが、主にセグメント間調整によるものであります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)

(単位:百万円)

	日本地域	北米地域	欧州地域	中華圏地域	オセアニア地域	東南・南アジア地域	その他地域	合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
売上高										
(1) 外部顧客への売上高	77,358	57,525	71,475	29,814	12,645	8,901	27,582	285,304	862	286,166
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	15,005	2,616	19	—	—	0	334	17,976	△17,976	—
計	92,364	60,141	71,495	29,814	12,645	8,901	27,917	303,280	△17,114	286,166
セグメント利益又は損失(注) 3	5,257	△3,853	2,069	5,144	1,408	873	1,507	12,407	269	12,677

(注) 1. (1) セグメント売上高の調整額は、報告セグメントに含まれない会社の売上高を含んでおりますが、主にセグメント間調整によるものであります。

(2) セグメント利益又は損失の調整額は、報告セグメントに含まれない会社の利益又は損失を含んでおりますが、主にセグメント間調整によるものであります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. EC販売拡大に伴い、第1四半期連結会計期間から各セグメント利益又は損失に、グループ会社に対するECプラットフォーム使用料等を含めております。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項がないため記載していません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項がないため記載していません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用につきましては、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

一部の海外子会社は、第1四半期連結会計期間よりIFRS第16号(リース)を適用しています。当該会計基準の適用にあたっては、経過措置として認められている、本基準の適用による累積的影響を適用開始日に認識する方法を適用しております。

当該会計基準の適用の結果、当第3四半期連結会計期間末の四半期連結貸借対照表において、固定資産の部に使用权資産24,143百万円、流動負債の部にリース債務4,797百万円、固定負債の部にリース債務21,215百万円が計上されております。なお、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益および税金等調整前四半期純利益における影響額は軽微であります。

(会計上の見積りの変更)

(耐用年数の変更)

当社が保有するグローバル基幹システムにかかるソフトウェアは、従来、耐用年数を5年として減価償却を行ってきましたが、前連結会計年度に実施した事業構造改革の過程で資産の使用可能期間に係る検討を継続してきました。第2四半期連結会計期間において、当該ソフトウェアについて、経済的使用予測期間を検討した結果、供用開始から10年間使用可能であると判断したため、耐用年数を供用開始から10年に見直し、将来にわたり変更しております。なお、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益および税金等調整前四半期純利益における影響額は軽微であります。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

## 3. 補足情報

## (1) 地域別売上高

前第3四半期連結累計期間(自 2018年1月1日 至 2018年9月30日)

(単位:百万円)

日本	北米	欧州	中華圏	その他	計
77,111	57,044	83,548	31,854	46,121	295,680

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

当第3四半期連結累計期間(自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)

(単位:百万円)

日本	北米	欧州	中華圏	その他	計
77,430	58,233	73,377	30,155	46,968	286,166

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

## (2) 在外子会社為替換算レート

	USD	EUR	RMB	AUD	SGD
2018年12月期第3四半期 (円)	109.98	131.04	16.83	83.21	81.97
2019年12月期第3四半期 (円)	109.27	122.78	15.93	76.34	80.04
増減 (円)	△0.71	△8.26	△0.90	△6.87	△1.93
増減比 (%)	△0.6	△6.3	△5.3	△8.3	△2.4

(注) 上記にて在外子会社の損益計算書を換算しております。

## (3) 報告セグメント別売上高増減比、セグメント利益増減比およびセグメント利益率

		日本地域	北米地域	欧州地域	中華圏地域	オセアニア地域	東南・南アジア地域	その他地域
売上高増減比 (%)	(外貨)	-	+2.5	△6.5	+0.1	+10.5	+19.5	+7.0
	(邦貨)	+2.7	+1.6	△12.4	△4.8	+1.3	+16.8	△3.3
セグメント利益増減比 (%)	(外貨)	-	-	△55.2	△3.6	△11.3	△26.7	-
	(邦貨)	+24.2	-	△57.2	△8.5	△18.6	△28.2	-
セグメント利益率 (%)		5.7	△6.4	2.9	17.3	11.1	9.8	5.4